

神奈川県立柏陽高等学校における学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおりに開催した。

審議会等名称	神奈川県立柏陽高等学校 令和5年度 第1回学校運営協議会
開催日時	令和5年7月1日(土) 13:00~15:00
開催場所	神奈川県立柏陽高等学校 大教室
[役職名] 出席者	<p>[委員] 川口 吉秋 (会長、元県立高等学校長) 堀口 和美 (横浜市栄区長) 飯島 俊朗 (横浜市消防局栄消防署長) 細田 利明 (本郷中央連合町内会自治会長) 一杉 太郎 (東京大学大学院教授、本校卒業生) 湊 浩一 (横浜市立本郷中学校長) 原 南実子 (横浜市立本郷台小学校長) 野沢 重和 (柏陽高等学校長)</p> <p>[事務局] 大河原 広行 (副校長)、竹村 健二 (教頭)、飯塚 洋史 (事務長) 東條 薫 (総括教諭)、吉田 将人 (総括教諭)、目黒 梓 (総括教諭)、 高比良 洋二 (総括教諭)、裏辻 悠真 (教諭)、近江 一太 (教諭)、 中山 藍 (教諭)</p>

～開会～

1 校長あいさつ

〈野沢校長〉

6月28日(水)に体育祭を実施した。今年度は各家庭1名ずつ保護者が来校し、コロナ禍で実施できなかった種目をプログラムに入れることができ、大いに盛り上がった。今後は7月に芸術鑑賞会、球技大会と続き、夏休みに入る。3年生は受験が本格化し、1、2年生は部活の中心となって活躍する。

生徒たちは活発に、教員も精力的に日々の学校生活を送っている。校長として、学校、生徒が抱える様々な課題と積極的に向き合っていきたいと考えている。

ご感想やご意見を頂戴して、本日の会を今後の学校運営に活かしていきたい。

2 学校運営協議会の開催にあたって

(1) 学校運営協議会委員の委嘱

〈大河原副校長〉

委嘱状が遅れており、学校に届いていない。大変申し訳ないが、届き次第郵送する。

(2) 学校運営協議会委員及び事務局の紹介

〈堀口委員〉

区長としての初めての仕事が柏陽高校での入学式だった。今後も学校と地域と協力しながら安心・安全を守っていきたい。

〈飯島委員〉

生徒のマナーが年々向上しているように感じる。

〈細田委員〉

今年で委員として8年目を迎えた。柏陽高校の生徒たちは和気藹々と授業に参加している。栄区のイベントに吹奏楽部や陸上部が協力してくれている。今後も地域と柏陽高校は切っても切れない関係だと思っている。

〈川口委員〉

教員として神奈川県で勤務し、最後は横須賀市の高校で校長を務めた。退職後5年ほど企業にいたが、もう一度教壇に立ちたいという思いから、再任用として複数の高校で勤務した。

〈一杉委員〉

卒業生として、柏陽高校に強い思い入れがある。先日は「東大 in 柏陽」というイベントで講義した。世の中の変化と共に教育も変化していくのではないかと。生徒の個性が大切に、やりたいことを追求できるような教育ができると良いのではないかと考えている。

〈湊委員〉

今まで教えた生徒で柏陽高校に入学した生徒も多くいる。学区があった時代に、柏陽高校に入学するた

めに学区外受験をした生徒もいた。柏陽高校を卒業した教え子は、社会で大いに活躍している。

〈原委員〉

本郷台小学校に校長として着任して4年目を迎えた。小学校と高校は離れているが、小学校からの積み重ねが大切だと実感している。具体的には、小学校での探究学習が高校での学びにつながると良いと考えている。相互に学校訪問や授業見学を実施していることから、今後も同じ教育に携わるものとしてよろしく申し上げたい。

〈野沢校長〉

柏陽高校赴任前は港南区の高校で2年間校長を務めたが、高校卒業後に社会に出る生徒が多かったため、生徒とのコミュニケーションを大切にしたい。今後も地域と連携しながら学校運営を行っていききたい。

(3) 学校運営協議会について

〈竹村教頭〉

組織体制、年間計画及び実施日程表は「学校運営協議会運営計画書」のとおりご参照いただきたい。

(4) 会長・副会長の選出

〈野沢校長〉

県立高校の経験もある川口委員に会長をお願いしたい。

(一同拍手) 承認

〈川口委員〉

野沢校長が総括教諭だった時に校長を務めていたという縁もあることから、是非会長として頑張らせていただきたい。サポート役として、野沢校長に副会長をお願いしたい。

(一同拍手) 承認

〈野沢校長〉

承知した。

3 協議

(1) 学校運営協議会の組織について

〈川口委員〉

学校運営協議会には設置が必須の学校評価部会と任意の学校設置部会がある。学校評価部会は委員の皆様に兼務していただく。昨年度は、学校設置部会として学校防災安全部会を設置した。

〈野沢校長〉

今年度は地域連携を目指し、学校防災安全部会を含めた地域連携部会と進路指導部会を設置したい。

〈川口委員〉

今年度新たに学校設置部会を2つ設けることで、教員業務の負担にならないか。変更した理由を説明していただきたい。

〈野沢校長〉

負担が全くないわけではないが、期待以上の効果が得られるのではないかと考えている。昨年度はコロナウイルス感染症の影響で、学校設置部会を複数設置できなかったという経緯もあり、2つになっても問題はない。

〈川口委員〉

よろしければ拍手をお願いしたい。

(一同拍手) 承認

〈川口委員〉

2つの部会について承認をいただいた。構成員に関しては、事務局と調整していただきたい。

〈野沢校長〉

事務局で調整し、会長には後日連絡する。学校設置部会の活動方針は、メンバーが決定してから行う。

(2) 神奈川県立柏陽高等学校の教育活動等について (報告)

[スライドによる説明]

〈東條総括教諭〉

- 平成14～18年スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 研究指定校の第一期の指定校だった。その名残もあり、理系の生徒が多い。平成30年から学力向上進学重点校に指定されている。今年で創立57年目となる。
- グランドデザインにもあるとおり、将来の国際社会で活躍する人材の育成を目指している。

- ・ 行事も部活動も授業も一生懸命やりたい生徒が多い。他の学力向上進学重点校と比較すると、様々なことに挑戦したい生徒が多い。自信がない生徒には教員が背中を押すことで、サポートをしている。柏陽高校の生徒会が作成した学校紹介動画をご覧いただきたい。
(学校紹介動画の視聴)
生徒の様子がお分かりいただけたら幸い。
- ・ 本校のカリキュラムは2年次に文系と理系に分かれる。3年次は自由選択をさせる学校が多いが、国際社会で活躍する生徒を育てたいという思いから、文理関係なく全ての科目を履修するカリキュラムになっている。その結果として国公立大学の受験に対応できる。
- ・ 授業の柏陽という懸垂幕を掲げ、授業を行っている。教員が一方的に講義をする授業は少なく、生徒は議論等を行うことで、主体的に活動している。保健体育・家庭科・音楽などの実技科目でも同様にアクティブな授業を行っている。具体例を紹介すると、国語の1年生の授業では、個人で対比の構造について考え、ペアワークで共有し、最後に全体で共有を行うことで、互いに学び合う姿勢を大切にしている。理科では、実験ばかり行うことは難しいので、生徒の科学的な見方や考え方を育成するため、教員が教室で演示実験を行うなど、生徒が事象を観察し、深い学びができるよう工夫している。家庭科では、一人一台パソコンを利用して、1日に必要な栄養の摂取の仕方について調べ、互いに共有することで学び合いを行っている。
- ・ 実力アップ講座、土曜講習、季節講習を実施しており、通常授業の内容を補填している。
- ・ 外部の機関と連携してキャリアアップ講座を開講している。東京大学主催の臨海実習では、三崎臨海実験所で生物を採取し、実験室で分類し、DNA解析を行う。高校の授業以上の内容を学ぶことができ、その学びは進路選択にもつながっている。
- ・ グローバル教育にも力を入れている。全員が参加する英語による即興型ディベート大会、海外修学旅行、姉妹校交流、希望者を対象に Global Studies Program、シンガポール国立大学での研修、その他海外研修も用意している。
- ・ 英語による即興型ディベート大会では、論題についてその場で議論を考える。ディベートをツールとして、コミュニケーション能力、思考力、判断力を育むことを目標としている。
- ・ Global Studies Program は語学研修ではなく、海外の留學生が各グループにつき、英語を用いてディスカッション等を行うことで、参加生徒が自分について深く考える機会となる。
- ・ 今年度6月に来校した姉妹校であるメモリアル高校（アメリカ合衆国ウィスコンシン州）の受け入れでは、かるた、茶道、書道などの日本文化を体験してもらった。

〈近江教諭〉

- ・ 本校の総合的な探究の時間について説明したい。SSH の時から探究的な学びを継続的に行ってきたが、新しい探究活動としてブラッシュアップを行っており、2年間の一貫した教育と体系的な組織運営をしている。
- ・ 基礎的な学びを体系的に行うことを目指し、サポートブックを本校オリジナルで作成した。1年次に行う4の研修は、2年次の資質能力育成の基礎となる。
- ・ 2年次には、興味のある分野ごとのグループに別れ、探究テーマを決定する。1月にポスターセッションを行い、3月には論文を提出する。
- ・ 探究活動推進チームを中心に体系的な組織作りを行うと共に、教員が自信を持って授業を実施できるよう、指導案を作成している。
- ・ このような本校の取り組みが認められ、三菱みらい育成財団から3年間の助成が決定した。

[各グループによる説明]

グループ	説明者	概要
総務・管理	東條 総括教諭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総務管理グループでは式典の計画・運営を行っている。 ・ 感染症対策の研修を行っており、美化委員会や環境委員会を中心に感染症予防を行っている。 ・ 防災訓練は年に3回行っている。5月には地区別の下校班ごとに顔合わせを行った。9月には消防署に協力いただき、実践的な避難訓練を行う予定である。3月には部活動中の避難訓練を行う。 ・ 事故を起こさない適切な会計処理を行っている。
研究・広報	東條 総括教諭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の魅力が伝わるような学校案内の作成を心がけている。 ・ 学校ホームページは、行事後1週間以内に更新できるようにしており、中学生だけでなく、地域の方にも情報を提供している。

グループ	説明者	概要
研究・広報	東條 総括教諭	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から海外研修が実施できるようになった。海外大学等交流研修はシンガポール国立大学で行う予定である。燃油サーチャージや物価の上昇によりアメリカには行けないが、研修地をシンガポールにすることで、コストを抑えながら生徒の学びが叶えられるようにしている。 本校の探究のロードマップをお時間があるときにご覧いただきたい。
教務・学習	吉田 総括教諭	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善の手だてとして、管理職による授業観察や教員間の授業見学を実施している 11月に実施する研究授業では、指導主事の助言指導や研究協議等を授業改善に活かしていく。 生徒による授業評価を行い、具体的な指導と手立てにつなげていく。
進路指導	市田 総括教諭	<ul style="list-style-type: none"> 近年、現役での大学進学率と国公立大学進学率が上がっている。54期生は、約4割の生徒が現役国公立に合格した。進学者が263名となり、例年より浪人が少なかった。コロナ禍ということもあり、現役志向が強かった学年だった。総合型選抜等を利用しての受験が増えている。 52期生から様々な行事を行うことで、進路に対する意識を上げる取り組みを行っている。具体的には、全学年 My Strategy という冊子を作成し、進路指導を系統化している。3学年では保護者対象の説明会を複数回開催したり、進路指導検討会を学年全体で行ったりすることで、手厚い進路指導を目指している。
生活支援	目黒 総括教諭	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラー (SC)、スクールソーシャルワーカー (SSW) と連携して生徒が相談できる機会を増やしている。生徒情報交換会で生徒情報を共有している。 遅刻指導や交通安全指導を行っている。通学時のマナーについては交通ルールなどを掲示し、注意喚起を行っている。 SC、SSW は今年度から週に1回来ているため、より充実した相談体制ができている。 学校生活アンケートは全ての生徒に回答させている。「学校は楽しいか」という質問で93%の生徒が楽しいと答えたが、進路や勉強の悩みが多く、生徒は進学校に通っているというプレッシャーを感じているようだ。 今後も SC、SSW などの専門家に入ってもらい、より良い相談体制をつくっていききたい。
活動支援	高比良 総括教諭	<ul style="list-style-type: none"> 主な行事をご覧いただきたい。体育祭では各家庭1名の見学としたところ、800名近くが来校した。感染症対策の観点からではなく、本校グラウンドのキャパシティの問題で、見学人数を制限した。文化祭では通常通りに戻す予定。 令和4年度関東大会以上の活動結果をご覧いただきたい。今年度もサッカー部、陸上部の活動が著しい。 栄区との共同活動をご覧いただきたい。今年度も連絡を密に、協力していきたい。 教育課程推進会議では、探究活動推進チームと ICT 利活用推進チームの2つを設置している。

〈野沢校長〉

- ・ スクールポリシーとは、ミッションに基づいて、どのような資質能力を育てるかなどの教育方針であり、柏陽高校が決めている。国際的な人材や国公立大学を目指すことなどを方針としている。
- ・ 学力向上進学重点校は今年で3年目なので、来年再指定を行う。指標があり、難関校の現役進学率もその1つである。そのため、進学実績の向上や授業については力を入れていく。
- ・ 今年度から、SCとSSWを各校1名配置している。SCの活用方法については想像がつくが、SSWに何を相談していいか困っている学校が多数あり、本校も活用について工夫を凝らす必要がある。
- ・ 地域との連携については単純にコロナ前に戻すだけでなく、新しいあり方を模索していきたい。小中との連携をより密にしていきたい。

【質疑応答】

〈川口委員〉

次に令和5年度の計画について協議していきたい。

〈堀口委員〉

カリキュラム、先生方のバイタリティーが素晴らしいと感じた。他校の様子も勉強していきたい。予算について、教育振興費が増額しているが、その具体を知りたい。

〈飯塚事務長〉

鍵のかかる扉つきロッカーの整備に向けて、予算が上がった。

〈飯島委員〉

昨年度お願いした生徒のカウンセリングの充実について、改善したようで安心した。私生活と教育のカウンセリングが充実することで、生徒の心身が安定するのではないかと。学力向上進学重点校として頑張ってもらいたいと思う一方で、先生方の心身のサポートもお願いしたい。

〈細田委員〉

学力向上進学重点校として認定を受けることでの柏陽のメリットは何か。コロナ前に柏陽が地域に対して様々な活動を行ってくれたため、令和5年度以降もお願いしたい。具体的には敬老会に芸達者な人達を招待しており、近隣の高校のチアリーディング部も参加している。共同募金について、柏陽高校に協力してもらったが、あまりPRができていないため、これからの課題としたい。

〈野沢校長〉

学力向上進学重点校のメリットは、様々な研究会を合同で行うことで、切磋琢磨ができるという点がある。さらに、年度末には、学力向上進学重点校の生徒だけが参加する海外研修やディベート大会がある。詳しくは、神奈川県ホームページを参考にしていきたい。

〈一杉委員〉

どのような人材育成をしたいのか議論したい。新教育課程では、文理関係なく全ての教科を履修させているが、どのような意図か。

〈東條総括教諭〉

国際社会でグローバルリーダーとして活躍するためには、無駄な教科は一つもないと考えている。ただ、現2年生が上級生とカリキュラムが異なることで、疑問等を抱く可能性があるため、フォローをしっかりとしていきたい。

〈一杉委員〉

近年リベラルアーツ教育が普及している。今後も自信を持っていただきたい。また、次代を作る人材に必要な学力とは何か。学校としての意見を聞きたい。

〈東條総括教諭〉

教員間で統一しているわけではない。

〈一杉委員〉

統一したほうがいい。単に成績で学力を図るのか。東大に入学できても伸びない学生が多い。新しい事を考えていく力が学力なのではないか。そこを議論していただきたい。また、どのように学ぶ力を養うのか。教育において、好奇心を刺激することで生徒のモチベーションが上がり、点数という狭義の意味での学力につながる。教員には楽しく教えていただきたい。大学から先に接続するような英語教育が必要であるため、ディベートを頑張ってもらいたい。SC、SSWの相談内容と解決方法について聞きたい。

〈目黒総括教諭〉

家庭の問題や人間関係が火種になり、そこから学校生活や成績に影響していく。

〈川口委員〉

高い学力とは何か、については本質的な内容であったため、先生方の宿題として考えていただきたい。

〈湊委員〉

プレゼンテーションを拝見し、教職員の力に感動している。特性のある生徒が近年増えているように感じる。元々いたのか、我々の判別能力が向上したのか知りたい。自分の子供を自分の学校に通わせることができるかが校長としての学校の評価基準となる。本郷中で3月に実施した学校説明会では、職員から柏陽に通いたくなったという意見が出ている。高校に合格することが目的になるべきではない。ついていけなくなる生徒をどう支援するかが学校のミッションだと思う。文武両道の学校は素晴らしいと思う。今後も憧れの学校であってほしい。

〈原委員〉

特性のある子どもについて、1クラスあたり、8.8%の割合でいると言われている。SSWの活用が必要だと思う。家庭や子どもたちを支える点で、小学校ではSSWにお世話になっている。柏陽高校は少ないと思うが、活用してほしい。学力についてお話をしたい。柏陽高校では、生徒同士が学び合うことで、学

びの姿を具現化している。生徒もそれに楽しさを見出している。今後も続けてほしい。それと並行して大学受験もあるため、頑張ってもらいたい。生徒の声を聞くこともでき、良かった。カウンセリングを活用して、アンケートで学校生活が楽しい、と答えていない生徒も支援してほしい。次は、ぜひ生徒の生の声を聞かせてもらいたい。

〈川口委員〉

柏陽高校に向けてのエールだった。本質を得た質の高い協議だった。資料を拝見し、令和4年度と5年度の教育活動の内容があまり変わっていないように感じたが、完成度の高い教育活動であることから、変える必要がない理由がわかった。教員は教科指導や部活指導で忙しいが、柏陽だからできることだと思って職務にあたることで、モチベーションも上がると考える。職員はやりたいことがあれば、どんどん校長に提案するべきだと思う。協議の内容は今後の学校運営についての追い風となると考える。教員もチーム柏陽として頑張ってもらいたい。

〈野沢校長〉

やれることは必ず実現させたい。柏陽の生徒は頑張れる生徒が多い。言われたことに対して全力に応えようとする姿勢がとても良いが、与えられないと成長できない生徒が多い。今後は、自分で自分を伸ばせるような生徒を増やしたい。

(3) 令和5年度神奈川県立柏陽高等学校の学校運営について（承認事項）

（一同拍手）承認

(4) 意見交換

〈細田委員〉

栄区の子供たちがもっと柏陽に入ってくれたら嬉しい。地域が抱く学校の評価が上がっていくと思う。

〈堀口委員〉

5月17日付けで栄区の選挙管理委員会から、出前講座の連絡があったと思う。体育館や教室で実施可能で、文化祭でマスコットを登場させるなどの協力もできる。検討いただきたい。

4 事務局より

〈大河原副校長〉

授業観察を通して、探究活動で課題解決をするための思考力・判断力が身に付く授業が実施されていると実感している。

(1) 今後の日程について

〈大河原副校長〉

学校運営協議会は年に3回実施している。今後も文化祭、その他の行事、公開授業等の連絡を行う予定。3月の評議会では、評価をお願いできればと考える。

(2) その他

〈野沢校長〉

今回はありがとうございました。1回目は学校からの説明が長くなるため、次回以降は協議の時間を長く取りたい。

～閉会～

今後の検討事項	次代を創る人材に必要な高い学力とは何か。
主な会議資料	・ 柏陽高校の教育活動について ・ 柏陽高校のミッション・学校評価等 ・ 令和5年度入学者向け「学校案内」
問合せ先	県立柏陽高等学校 副校長 大河原 広行 電話番号 045(892)2106